

異常高温・高飽差緊急情報 第1号

令和7年9月3日
新潟県農林水産部

9月2日に異常高温と著しい乾燥が発生
胴割粒発生の大危険性大
こしいぶきは速やかに収穫しましょう！

対応が必要な水稻

品種	こしいぶき
----	-------

気象状況

- 9月2日に異常高温と著しい乾燥が発生し、こしいぶきの胴割粒発生の大危険水準を超える日平均飽差^注となりました。

注) 飽差は空気の乾燥程度を示す指標。数字が大きいほど乾燥程度が大きい。

当面の管理対策

- こしいぶきは、出穂後積算気温が90°C以上の場合、ほ場で籾を確認し、籾黄化率80~85%をめやすに、水分計がある場合は、籾水分を測定し、22%未満の場合はできる限り速やかに収穫してください。
- 収穫時の籾水分が低い場合は、日中は常温で通風乾燥を行い、点火は夜間等で気温が下がってから、送風温度を低めに設定（毎時乾燥速度が0.5%以下）し乾燥しましょう。
- 乾燥機に2段乾燥機能や休止乾燥機能があれば利用し、丁寧に乾燥してください。

暑い日が続いています。
熱中症と農作業事故に注意しましょう。

参考資料

9月2日 県内アメダス観測地点（15地点）における日平均飽差

アメダス地点	村上	相川	下関	新潟	新津	三条	津川
日平均飽差 (g/m^3)	4.4	6.2	5.3	8.0	6.8	6.7	4.2
判定*		○		○	○	○	

アメダス地点	長岡	柏崎	大潟	高田	能生	津南
日平均飽差 (g/m^3)	7.6	5.5	6.5	9.6	7	6.6
判定*	○		○	●	○	○

※ 判定基準 ●：9.0以上 こしいぶき、コシヒカリ、新之助で胴割粒発生の危険大
○：6.0以上9.0未満 新之助で胴割粒発生の危険大
なし：6.0未満 胴割粒発生の危険小、

日平均飽差は、日平均気温・日平均湿度から計算した値です。

過去のデータについては、下記ホームページに掲載しています。

<https://www.pref.niigata.lg.jp/site/nouen/r7inasaku.html#housa>

飽差（ g/m^3 ）とは

1立方メートルの空気中に、あと何グラムの水蒸気を含むことができるかを示す値のことで、空気の乾燥程度を表しています。この数値が大きいほど、空気中により多くの水分を含むことができ、湿きやすい状態であることを示します。

飽差と胴割粒の関係

胴割粒は、出穂後の高温や収穫期頃の乾燥、刈遅れ等で発生します。収穫期近くの籾水分が22%未満に低下した時期に、飽差が高くなると胴割粒が急増することが分かっており、特に新之助で多発しやすいです。この時の飽差のめやすは、「こしいぶき」、「コシヒカリ」では $9\text{g}/\text{m}^3$ 以上、「新之助」では $6\text{g}/\text{m}^3$ 以上です。胴割粒の発生を抑えるため、出穂後積算気温 800°C から飽差を確認し、籾水分が22%未満に低下した以降に飽差が高くなった場合は速やかに収穫しましょう。

詳細は農業総合研究所研究成果「フェーン現象や乾燥による胴割粒の多発を抑制する早期収穫判断のめやす」を参考にしてください。

<https://www.pref.niigata.lg.jp/uploaded/attachment/336549.pdf>

* 籾の水分測定方法

ほ場内の平均的な株を数株選んで、それぞれの主茎（1本）を抜き取り、籾の表面が濡れていたらふき取り、籾を全て脱穀して、市販の穀物用水分計で籾水分の測定を行う。